

吃音の特徴	話し始めの言葉が出にくいことが多い	言いやすい言葉 言いにくい言葉がある	調子がいい時 悪い時がある 話す場面で変わる
-------	-------------------	-----------------------	---------------------------

発表や音読は、先生や友だちと一緒にあわせて読むと読みやすいです。	言い換えができない言葉で苦勞することが多いです。 あいさつ・日直の号令・健康観察九九の発表・卒業式の言葉など	自分でも吃音がいつ出てくるか予測できず、不安を募らせやすいです。
----------------------------------	---	----------------------------------

吃音の子どもだけが一緒に読むのではなく、**まわりから特別扱いに見えないさりげない配慮**をお願いします。



子どもと直接話し合ってください

子どもが困っている場面、吃音に対する気持ちは、一人一人異なります。子どもにとって気持ちを聴いてもらうことが助けになります。

子どもへの声かけの例

- 「言葉が出にくくて困っていることない？」
- 「発表の時はどうしてほしい？」
- 「順番に指名した方がいい？急に指名した方がいい？」
- 「答えがわかっているけど、言えそうにない時は挙手の手をグーにするのはどう？」
- 「今は、指名しない方が安心かな？」

入学・進級時、長期休み明けなどに先生の方から話し合いをお願いします。



2人きりの安心できる環境で

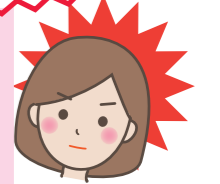
クラスメートの理解が大切です

まわりの理解によって発話の不安や緊張が軽減します。



もしも、からかいがおこった場合すぐにやめさせてください！

からかわれると症状が悪化しやすいです。



対応の例

「からかったりすると、〇〇くんの言葉の調子が悪くなってしまいます。からかったりしないで、ゆっくり聞いて〇〇くんを助けてあげてください」

クラスメートへの説明の例

- 「〇〇くんは小さい頃から話す時、言葉が出にくいことがあります」
- 「つかえて話したり、話し始めるまでにすこし間があいてしまったりすることがありますが、わざとではありません」
- 「話し終わるまで、ゆっくり聞くようにすると、〇〇くんは話しやすくなります」
- 「話し方を真似したり、せかしたりしないで、〇〇くんを助けてあげてくださいね」

！ クラスメートに説明する前に

本人に次のことを相談してください。

- 周囲に説明した方がいいか？
- どんなふうに説明するか？
- 説明は本人がいない方がいいか？いる方がいいか？



吃音の症状が見えなくても、本人はとても悩んでいるかもしれません。どもることへの不安から消極的になり、人との関わりを避けるようになることもあります。

子どもへの言葉かけで注意することは

× 「緊張しないで」「落ち着いて」「ゆっくり言って」

吃音の時は、自分の意思に反して構音器官（のどや口など）が硬直してしまいます。話し方のアドバイスをしても効果がないばかりか、逆にプレッシャーとなってしまいます。

話し方ではなく話す内容に耳を傾けてもらっていると子どもが実感できる言葉かけをお願いします

はげます時に注意することは

× 「吃音は全然わからないよ」「普通に話せてるから大丈夫だよ」

「どもるのはいけないこと」という逆のメッセージとして伝わる場合があります。「どもってもどもらなくても君は君だよ」「どもっても大丈夫だよ」など、子どもが安心して話せる環境であることを伝えてください。